

全国的な学力調査の在り方について

(教育課程企画特別部会の主な意見)

1. 意義・目的に関連して

学習指導要領における到達目標を評価するという視点で見た場合、全国的な学力調査を含めて体系的に調査を実施することなどを通じて、学習評価を実施していくという視点が重要

児童生徒や教師の意欲に結びつけるためには、過度な競争ではなくとも適度な競争となるようにすべき

学力向上に向けた競争と到達度を評価することは本質的に異なるということ認識しておくべき

学力向上の観点からは、学校間の競争意識を高めつつも学力の低いとされる学校の教育努力への意欲をそがないよう配慮すべき

学習指導要領における到達目標においては、国としての目標設定とともに一人一人の児童生徒の対する目標を与えてあげることが重要であると考え。その視点と併せて考えると、学力調査については、教育現場の基礎的な単位である学校毎の状況を把握するとともにその結果を活用できるようにするという視点が重要

2. 調査の実施内容・実施方法に関連して

国が教育課程の評価を行うための情報収集を行うということを基本路線とするのであれば、センター試験のような「テスト」ではなく「学力調査」とすべき

自治体さらには学校単位での成績を教育現場にフィードバックすることが重要であり、その視点に立てば悉皆あるいはそれに近い規模で学力調査を実施することが必要

保護者の立場で考えると、全国一律に各学年で行って欲しい

相当大きな規模で実施することになると思われるため、都道府県、民間、大学などの協力も得つつ、きちんとした研究開発が可能となるよう、さらには実際に実施可能な体制を構築することが必要

マーク式テストの弊害等も考慮しつつ、PISA調査のように、思考力や実生活で直面する課題を解決する能力などを測定可能なものとするとともに、客観的な採点を可能とする基準作成も十分検討すべき

調査問題は、評価規準との関係を予めきちんと整理することにより、指導改善に活かされるよう工夫すべき

3. 調査結果の取扱いなどに関連して

調査の対象や公表の仕方については、行政的な目的を明確にしつつそれに沿って検討すべき

序列化につながらないよう関係者間で公表方法や内容を明確にしておくことが必要

都道府県など、違うグループ間での調査結果において差が出るようであれば、その原因を特定するために分析を行うことが重要

調査結果を指導改善に活かすためには、児童生徒の意識調査や学習状況、教師の指導方法に関する調査を行うとともにそれらと学力との関係を分析し、その結果が実際の指導改善に役立ったかどうかを評価することが大切
保護者や教員に対しては、調査の目的・趣旨・活用方法などについてきちんと周知徹底を図るとともに、調査結果をフィードバックできるよう検討して欲しい